

吉野川を釣る！



(大正12年完成の由緒ある第十樋門)

こんにちは、さすらいの釣り人系河川管理者のNです。趣味のルアーフィッシングを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私は、ルアーでいろいろな魚を釣ることを趣味としていて、現在までに300種ほどの魚（淡水・海水・軟体動物含む）を釣っています。

今回、徳島に本当に久しぶりに勤務することとなりましたので、「吉野川でルアーにより何種類釣れるのか」に挑戦してみたいと思います。現在41種達成ですが、今回は何種類釣れるでしょうか？

私は、新しい対象魚を狙う場合、対象魚の食べているもの、生息場所を丹念に調べて、食べているものに合わせたルアーを集め、天候、時間帯、潮汐状況、水の透明度等を確認し、一番可能性の高い時に釣りに行くようにしています。

また、シチュエーションも大事で、良く澄んだ清流とか、人の踏み入ったことのないような場所にある滝つぼとか、さらには、流れのよく当たる手前から3番目の岩でルアーに食いつかせるとか。

自分が組み立てた作戦通りに釣れると本当に気持ちが良く、それだけでアドレナリンが駄々洩れになり、家に帰ってビールを一気に喉に流し込めば、とても良い気分を刻を過ごせることとなります。



ところが、いつもそう上手くいくかというと、そうはいかず、「え〜こんなところで〜」と思わず頭を抱えてしまうことも多くあります。

それでは、今回は狙って釣ったのではなく、「思わず釣れてしまった」**特集**をしてみたいと思います。



最初は、「ライギョ（カムルチー）」です。「吉野川を釣る」では折角ですので、外来魚ではなく在来種を中心に狙ってきましたが、そろそろネタ切れ間近となり、R2の初夏は狙って釣れるライギョに的を絞って釣ろうと思い道具を用意しておりました。



ライギョ釣りのために用意した道具たち

ライギョといえば、一番に浮かぶシチュエーションとして、右の写真のように鬱蒼と茂る水草の上でフロッグ（カエル型ルアー）を走らせ、下からガポーンと喰い付かせる豪快な釣りです。

水草の切れ目で集中して、チョコチョコとフロッグを躍らせ、待っていると、大きな水音と同時にフロッグが目の前から消え、それと同時に大合わせするような釣りが理想です。



これはハスですが、ヒシとかが良い



葦と水草が良い感じ

もしくは、左の写真のような倒木・抽水植物などの障害物の中をスピナーベイトで探り、障害物の陰からドカーンと飛び出してくる釣りとかがです。

ところが、このライギョは、第十樋門で春にサツキマスを狙っていたときにミノーに釣れてしまいました。

強い流れの中をミノーで探っているとガツンと強い当たりが！ぐんぐん引き大物サツキだと思いいん臓がバクバクしていましたが、茶色の魚体が水面を割って出て、とたんにがっくり……

サツキマスを狙っていたので、0.5号タックルでありまあまあ楽しめ、嬉しかったのですが、いろいろ用意をし、初夏になったら頑張るぞと思っていた矢先だったのでなんだかモヤモヤが残る結果となりました。このライギョが釣れてしまったためにヤル気が出なくなり、その後はライギョ狙いには行っていません。



60 cmのライギョ（カムルチー）道具は、メバルタックル

続いては、「カタクチイワシ」です。カタクチイワシは、吉野川河口に沢山いて大型魚の餌となっています。

この魚は、ジギングサビキ（メタルジグの上にサビキ【針に魚皮等を被せたもの】）で釣れる魚（ウルメイワシ、マイワシ、コノシロ等）と一緒に釣ってジギングサビキ特集としようと思っていたところ、ツバスを狙っていたジグで釣れてしまいました。

なかなか思うようにはいかないものです。



7 cmほどのカタクチイワシ

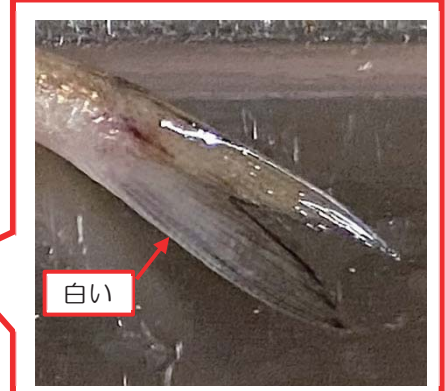
続いては、「マエソ」です。この魚は12種類いるマエソ属のうち「真エソ」だけに前々から釣ってたかった1種で、新町川河口域でR2初夏にまとまって釣れたものです。干物にするために持って帰って捌いてみると、小さいサイズのわりに卵を持っていて、何かワニエソと違う感じがしました。しばらくたってまじめに同定してみると、今まで尾鰭の下側が白いものがマエソと思い込んでいたのですが、尾鰭下側の下縁（したえん・かえん）が白いのが正解で、この魚がマエソでした。



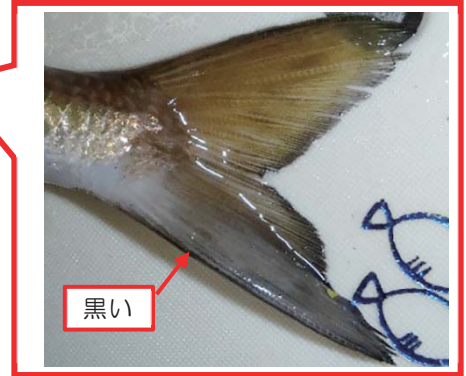
約 20cm のマエソ



R2 初夏、新町川河口域でたくさん釣れた



56cm のワニエソ (吉野川外)



このときは狙っていたわけでもなく、その日には新種が釣れたこともわからず、後日わかるという・・・非常にイマイチな感じでした。

狙っていて、その日のうちに同定出来ていれば、どれだけビールが美味しかったでしょうか！今でも残念です。

続いては、「ホウボウ」です。胸鰭が特徴的で色鮮やか。また、胸鰭の下の軟条3対で海底を歩くことができ、軟条で海底を方々歩くことから名前がついたと言われています。

岸からのルアーではめったに釣れません。

砂泥底が好きなので、河口右岸の砂州で同じような系統の魚と一緒に釣れるつもりだったのですが、思いがけず新町川河口域で釣れました。



16cmのホウボウ
派手な胸びれが特徴で、
軟条で海底を歩きます



以上「思わず釣れてしまった」特集でした！

次は、**料理のコーナー**です

今回のテーマのとおり、狙って採るものでもないのですが、堤防や消波ブロック、石などに付いている巻貝イシダタミのボイルです。

釣りに行っていると、いろいろな巻貝、二枚貝等を探ることが出来ます。

例を挙げるとイシダタミ、シッタカ、カメノテ、ムラサキイガイ（ムール貝）、ムラサキインコ（シイ）、これらは、いずれも食べることが出来ますが、私は特にこのイシダタミが大好きです。10分ほどで採れ、酒のつまみに最適です。

また、四国の海岸であればたいていどこにでもいて、料理も簡単なので、是非食べてみてください。



吉野川河口で採取したイシダタミ
(殻高 2cm 程度)

～おいしいゆで方～

①貝が汚れているので、淡水で軽く洗います。

② 5%程度の塩水を作り、貝を入れます。

ポイント！

沸騰してから入れると、貝が驚いて中に入り込んでしまいますので、必ず水から入れて弱火で茹でて下さい。

③ 貝が動かなくなるのを確認して中火で4・5分ボイルします。

④もう出来上がりです。



弱火で茹でている状況



後は百円ショップで買ってきた千枚通しで中身を出して食べるだけです。我が家は、家族全員大好きなので、家族分の名前入り千枚通しがあります。

中身を取り出すのは慣れないと難しいですが、身をうまく取り出すのも楽しみのひとつです！



今回は、狙っていないのに釣れてしまった魚特集でした。このように狙っていない魚が意表をついて釣れることもルアー釣りの醍醐味です。

吉野川は、今回のように色々な魚が色々な方法で釣れる本当に面白いところです。皆さんも見たことのないような魚を目指して釣りに出かけてみて下さい。

今回、4魚種ゲット。通算45魚種となりました。次はどこで何を狙おうかな？

釣り人Nのお魚紹介コーナー



<ライギョうんちく>

ススキ目 タイワンドジョウ亜目 タイワンドジョウ科 タイワンドジョウ属 ライギョ(カムルチー)

棲んでいるところ:淡水魚 中国揚子江中流域から北、朝鮮半島、北海道以南の日本各地。

大きさ:全長100cm以上になるものもいる。

食べているもの:小魚、甲殻類、両生類、哺乳類、鳥類等なんでも食べる。

食べ方:朝鮮半島や中国では重要な食用魚。関東では、中華料理店などで使われている。旬は秋から春

・ブラックバスが流行る前はルアーのメインターゲット。今でもメインで狙っているコアなファンが多い。

・空気呼吸が出来る。冬は泥にもぐり冬眠する。

<カタクチイワシうんちく>

ニシン目 ニシン亜目 カタクチイワシ科 カタクチイワシ属 カタクチイワシ

棲んでいるところ:海水魚 西部太平洋、琉球列島、小笠原諸島を除く日本全域。

大きさ:最大18cmになるものもいる。

食べているもの:動物プランクトン食性で泳ぎながら口を大きく開けて海水ごと吸い込む。

食べ方:シラス、ちりめん、煮干しで利用される。天ぷら、刺身がうまい。旬は冬

・肉食魚等にはなくてはならない餌。カツオ漁の餌としても重要

<マエソうんちく>

ヒメ目 エソ亜目 エソ科 マエソ属 マエソ

棲んでいるところ:海水魚 水深100m以浅の砂泥底。南日本、南シナ海に分布する。

大きさ:体長40cm前後になる。

食べているもの:肉食性で、何でも食べる。

食べ方:高級かまぼこ、さつま揚げ、つみれ。私は干物が大好き 旬は春から夏

・マエソ属は同定困難。

<ホウボウうんちく>

カサゴ目 コチ亜目 ホウボウ科 ホウボウ属 ホウボウ

棲んでいるところ:海水魚 600m以浅の砂泥底。北海道以南の日本各地。黄海、渤海から南シナ海。

大きさ:全長40cmに達する。

食べているもの:魚食性で、エビ、カニ、小魚等を食べる。

食べ方:刺身、煮つけ、から揚げ、塩焼き、なべ料理、干物等、多種多様。旬は秋から春